

# 中海コハクチョウの渡来傾向について

内 田 映

今冬（昭和50～51年）の島根県中海へのコハクチョウ（*Cygnus columbianus jankowskii*）の初認は、10月22日の成鳥2羽、幼鳥3羽の1群であった。11月に入ると早くも100羽を越え、10日頃には336羽も数えられて、その渡来スピードは例年より非常に早い特徴を示した。そして20日頃には500羽を突破して、戦後島根県への渡来の最高羽数となった。更に引続き11月末には、コハクチョウ544羽、オオハクチョウ13羽合計557羽を記録した。その後は、コハクチョウ562羽、オオハクチョウ13羽合計575羽が、今冬の最多羽数である。

この史上空前とでも言うべき中海へのコハクチョウの渡来をどう解釈して理由づけしてよいか、少し調べてみた。それには日本へどの位のコハクチョウが渡来しているかを知る必要がある。日本白鳥の会の全国定点定時観測資料もあるが、経過年数が少いので、今回は環境庁鳥獣保護課のガンカモ科鳥類調査資料によることにした。環境庁では、毎年1月の中旬の特定日の同時刻に、どの位の種類の数量が日本に渡来しているのかを知る為に毎年実践しているものである。この資料から過去5年（昭和46～50年）分のコハクチョウ類関係分を抜き出して表にしてみたのが第1表である。

第1表 最近5ケ年間の日本及び中海へのコハクチョウの渡来状況

種別 調査年月日	コハクチョウ		オオハクチョウ		種不明		合計		備考
	全国	中海	全国	中海	全国	中海	全国	中海	
昭和 46.1.18	846	189	11,429	-	-	-	12,275	189	中海（島根県）には僅少の宍道湖分も含む。種不明は、コハクチョウかオオハクチョウか不明なもの。全国（日本）には当然中海分が入っている。
47.1.17	934	244	9,849	-	694	-	11,477	244	
48.1.16	1,689	309	13,185	4	1,193	-	16,067	313	
49.1.14	1,226	268	11,359	13	480	-	13,065	281	
50.1.16	1,745	378	11,270	2	979	-	13,994	380	

環境庁ガンカモ科鳥類調査資料より

この表で見ると、過去5ケ年では、日本へコハクチョウが前年より多く渡来した年は、中海渡来のコハクチョウも前年より増え、逆に日本渡来が前年より少なかった年には、中海も前年より少なくなっていることが分った。即ち日本渡来のコハクチョウ総量と中海渡来のコハクチョウ数量との間には、明らかに比例的関係があることが分った。

然らば今冬の1月16日環境庁調査結果では、どういふことになるか、残念ながら中海への渡来以外は分らないので、宮城県の横田氏と福島県の大森氏の両会員へ16日調査の結果を照会した。それは日本渡来のコハクチョウは、伊豆沼、猪苗代湖、中海が三大渡来地であるので、この3県の渡来数が分ると、ほぼ見当がつくからである。この結果をまとめたのが第2表である。これで見られるように、この3渡来地だけで既に昨冬の1745

第2表 昭和51.1.16コハクチョウ調査

中海	猪苗代湖	伊豆沼	合計
540	430	800	1,770

羽より僅かながら増えていることが分った。更に青森、岩手、秋田、山形、新潟、石川等の各県への渡来数も追加が推定されるので、確に今冬は昨冬よりも多く渡来したことが判明した。従って過去5年も、また今冬も即ち6年間の中海への渡来数は、日本への渡来数に比例しているということが言えると思料する。

終りに快く今冬のコハクチョウ渡来数の御回報をしていただいた横田義雄、大森常三郎両氏へ深謝申し上げる。（島根野鳥の会長）